

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	22-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Changes in alcohol beliefs mediate the effects of a school-based prevention program on alcohol use among Brazilian adolescents</p> <p>アルコールに対する信念の変化が、ブラジルの青少年のアルコール使用に対する学校ベースの予防プログラムの効果を媒介する</p>		
<b>執筆者</b>		
Garcia-Cerde R, Valente JY, Sanchez ZM.		
<b>掲載誌</b>		
Addict Behav. 2023 Feb;137:107522. doi: 10.1016/j.addbeh.2022.107522.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
青年期、アルコール使用予防、行動の予測因子、薬物使用防止、ライフスキル能力、媒介分析		36242996
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>薬物の知識、行動信念、態度、意思決定や拒否スキルなどを含んだ、生涯のアルコールと薬物使用の予防を媒介する#Tamojuntto2.0プログラムのメカニズムを調査することである。</p> <p><b>方法：</b>ブラジルの3都市の公立中学校73校を対象に、クラスター無作為化比較試験を実施した。生徒5208人(女子49.4%、年齢13.2歳)を対象とした。介入群は、事前に訓練を受けた教師による#Tamojuntto2.0の授業を12回受講した。対照群はこれらの介入を受けなかった。データは介入前と9ヵ月後のフォローアップ時に収集された。階層構造を考慮して標準誤差を推定後に調整した多重媒介モデル(全標本、ユーザー、非ユーザーについて)を実施した。アルコール、暴飲、タバコ、マリファナ、吸入剤の生涯使用など、薬物ごとに利用可能なすべての媒介因子を同時に分析した。欠損データを扱うために、「完全情報最尤法」を用いた</p> <p><b>結果：</b>全対象者および非使用者における結果は、#Tamojuntto2.0は、否定的および非肯定的なアルコールへの信念を増加させることにより、生涯のアルコール使用および暴飲を間接的に予防することを示した。直接的効果は、生涯の飲酒量の減少に対してのみ統計的に有意であった。アルコールに関する知識を通じて間接的に暴飲の増加が観察されたが、直接的効果は統計的に有意ではなかった。マリファナ、タバコ、吸入剤については、直接、間接の効果はみられなかった。使用者においては、アルコールと薬物の使用全てにおいて統計的に有意な効果は認められなかった。</p> <p><b>結論：</b>この結果から、#Tamojuntto2.0プログラムは、否定的・非肯定的なアルコール信念を増加させることによってのみ、アルコールの若年での摂取を遅らせる効果があったことが示唆される。媒介メカニズムは、状況の特徴、青少年の社会性の違い、教育システムの特徴、心理社会的条件、あるいはプログラム実施の忠実性の問題などに応じて変化すると考えられる。</p>		